

自由研究発表

ウンガはスンバで最初の村か？  
－スンバの起源神話と人類学の研究成果－

Is Wunga the First Village on Sumba, Eastern Indonesia:  
The Sumbanese Origin Myth and Anthropological Findings

小池 誠 (桃山学院大学)

KOIKE Makoto (Momoyama Gakuin University)

1985～1988年に発表者が調査したスンバ島の中核村ウンガは、スンバで「最初の村」と呼ばれていた。スンバ人のマラプ（祖先神、祖霊）が上陸したと伝えられるハハル岬が近くにあり、神話的な背景をもった地域として知られていた。私にとって神話は研究によって明らかにされる歴史とは別物であった。ところが、たまたま見つけたインドネシア語の記事 [anon. 2016] に、Lansing を中心とする研究チームが山の中腹に位置する「ウンガが最初の村」だと明らかにしたと書かれていた。参照論文 [Lansing et al. 2007] は、ウンガ周辺をオーストロネシア系言語集団の上陸地点とみなし、遺伝子と言語の分析結果はともにそこからスンバ人がスンバ島各地に広がって行ったことを示している述べている。この結論の妥当性を検討するのが本発表の目的である。

伝承に関しては、スンバ各地に伝えられている神話の内容は多様であり、ハハル岬だけが渡来集団の上陸地点とは言えない。とはいえ実際にフローレス海を航海してきた人びとにとってハハル岬がランドマークとなることは確かである。一方、スンバ島における最近の発掘調査によると [Handini et al. 2023]、ハハル岬の東を流れるカダハン川に近い Mburu Mbaku で発掘が進められている（遺跡の年代は不明）。中核村ウンガという水を得るのが困難で生活環境上ふさわしくない地域に集落を建てる以前に、Mburu Mbaku のような川沿いに集落があったと想定するほうがはるかに妥当である。

#### 参考文献

anon., 2016, Kisah Warga Sumba, Kupang, NTT,

<https://brandalmetropolitan.blogspot.com/2016/08/kisah-warga-sumba-nusa-teggara-timur.html> [最終確認 2023/10/07]

Handini, R. et al., 2023, New Evidence on the Early Human Occupation in Sumba Islands, *L'Anthropologie* 127: 1-13.

Lansing, S. et al., 2007, Coevolution of Languages and Genes on the Island of Sumba, eastern Indonesia, *PNAS* 104-41: 16022–16026.